



崇仁すくすくセンター (挿し木プロジェクト)

2024年度 活動記録集

崇仁すくすくセンター (挿し木プロジェクト) 活動概要

2020年～2030年(予定)

3 挿し木をきっかけに、 新たなつながりをはぐくむ。

私たちが活動を続けるなかで、植物や作品を介した人々のつながりから、新たにさまざまな活動が生まれるようになりまし。これらの展開にも伴走しながら、地域の新たなつながりを育んでいきたいと思。い。

2 挿し木を想い、 作品をつくる。

かつて樹木と共にあった崇仁のまちの風景、挿し木が地面に戻った後のまちや人々の姿を想像しながら、挿し木に関連した作品(「大きな作品」シリーズ)を地域の方々と一緒に制作しています。挿し木としては育たなかった樹木も、様々な形で作品制作に生かすことで継承を試みています。

1 挿し木によって、 土地や人びとの記憶をつなぐ。

芸術大学の移転などの再開発によって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共に命を育んできた樹木を挿し木の形で継承することを試みています。挿し木は地域の方々とともに成長を見守り、土地や人びとの記憶を継承しながら、いずれしかるべき場所に植え戻していきます。すべての挿し木の地植えを目標に、2030年を目途に計画をたてて活動を進めています。

イラスト：カズマキカク

はじめに

2020年に崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)の活動を開始してからまもなく5年。多くの方々のご協力のおかげで、少しずつではありますが、崇仁および近隣地域でのつながりが育まれていることを実感しています。

挿し木の成長が安定してきたこともあり、今年度は5本の挿し木を新たな場所に植え戻すことができました。これらの挿し木は京都市以外も含めた幅広い地域の方々に生育を見守っていただきました。

地植えの際に挿し木と一緒に設置するプランターや看板の制作には、京都市立芸大の学生さん、京都市立美術工芸高校園芸部の生徒さん、児童館の子どもたちや地域の方々のご協力くださいました。地域の花壇づくりや水やりについても協働で

実施されるようになり、挿し木を通じた地域の交流の輪が広がっている喜びを感じています。

挿し木に関連した大きな作品シリーズの制作も継続しています。「大きな旗」「大きなピクニックマット」に続く第3弾として、今年度は「挿し穂の横断幕」の制作に着手しました。地域の有志「すくすくほがらか隊」、崇仁デイサービスうおいの利用者の方々、京都市立芸大の学生さんと協働し、2025年11月頃の完成を目指して制作に取り組んでいます。

崇仁すくすくセンターは土地の記憶や人々とのつながりを大切に、地域との関わりを軸に更なる展開を図っていきたく思います。今後とも私たちの活動をぜひ見守ってくだされば幸いです。

崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)とは

2019-2020年度HAPS主催による京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環として、アーティストの山本麻紀子がスタートさせたプロジェクト。京都市立芸術大学および京都市立美術工芸高等学校の移転などの新たなまちづくりによって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共にあった元崇仁小学校、元崇仁市営住宅、元崇仁保育所などで命を育んできた樹木の挿し木を試み、地域住民と

ともにその成長を見守り、土地の記憶や人の繋がりを継承しながら、いずれしかるべき場所に木を地植えして返すことを目指しています。2021年度より、崇仁すくすくセンター実行委員会を立ち上げ、主に、崇仁デイサービスうおいと京都市下京・東部地域包括支援センターとの関わりを軸に、様々な方との作品づくりも行っています。すべての挿し木の地植えを目標に、2030年を目途に計画をたてて活動を進めています。

現在の挿し木一覧

番号	元々生育していた場所	樹木名	採取した年月日	地植えした年月日	地植えした場所
1	崇仁市営住宅	ムクゲ	2020.4.28		
2	崇仁市営住宅	アジサイ①	2020.4.28	2023.6.23	うるおい館・南西角花壇
3	崇仁市営住宅	アジサイ②	2020.4.28	2025.1.18	涉成園(枳殻邸)
4	崇仁市営住宅	アジサイ③	2020.4.28		
5	崇仁市営住宅	アジサイ④	2020.4.28		
6	崇仁第三浴場の北	クチナシ	2020.4.30	2024.10.25	柳原銀行記念資料館・入口右手
7	崇仁小学校	アジサイ①	2020.5.1	2024.10.1	京都市下京涉成小学校
8	崇仁小学校	アジサイ②	2020.5.1		
9	崇仁小学校	アジサイ③	2020.5.29		
10	崇仁小学校	ナツミカン①	2020.6.25		
11	崇仁小学校	ナツミカン④	2020.6.25		
12	崇仁小学校	ナツミカン⑧	2020.6.25		
13	崇仁小学校	ナツミカン⑨	2020.6.25		
14	崇仁小学校	ナツミカン⑩	2020.6.25		
15	崇仁小学校	ナツミカン⑫	2020.6.25		
16	崇仁小学校	ヒメクチナシ④	2020.6.26		
17	崇仁小学校	ヒメクチナシ⑪	2020.6.26		
18	崇仁保育所	バラ①	2020.7.22		
19	崇仁保育所	バラ②	2020.7.22	2024.5.24	柳原銀行記念資料館・東隣
20	崇仁保育所	マサキ③	2020.7.28	2024.11.8	稚松保育園
21	崇仁保育所	マサキ④	2020.7.28		

2020年に挿し木にした776本のうち、上記の21本が命をつないでいます。このうち6本の地植えが完了し、今後残り15本を植え戻していく予定です。

1. 挿し木によって、土地や人びとの記憶をつなぐ。

2024年度は5本の挿し木を新たな場所に植え戻し、これまでに地植えした挿し木は合計6本となりました。2025年1月時点で、残る挿し木は15本。全ての挿し木の地植えを目標に、これからも活動を続けていきます。

バラ ②

元々生育していた場所：元崇仁保育所
(2020年7月22日採取)

かつて元崇仁保育所に生きていたバラを、柳原銀行記念資料館の東隣(京都市立芸大敷地内)に植え戻しました。2回の不調を乗り越え、4箇所を渡り歩いたバラ。地植え会当日は地域の方々や芸大関係者を含め多くの方にお越しいただき、地面に戻る姿を見届けました。

地面に植え戻した場所：柳原銀行記念資料館・東隣(2024年5月24日)



アジサイ ①

元々生育していた場所：元崇仁小学校
(2020年5月1日採取)

元崇仁小学校の校庭の東側(鴨川沿い)に生きていたアジサイは、京都市立下京渉成小学校の正門近くに植え戻しました。これからはこの場所で子どもたちを見守ってくださいますようにと願いを込め、渉成小の子どもたちと協力しながら地植えしました。

地面に植え戻した場所：京都市下京渉成小学校(2024年10月1日)



クちなシ

元々生育していた場所：元崇仁第三浴場北あたり(2020年4月30日採取)

元崇仁第三浴場の北あたりに生きていたクちなシは、挿し木にしてから途中一度不調になりましたが、地域の方の見守りのおかげで地植えできるまで元気を取り戻しました。柳原銀行記念資料館入口の右手、地域で大切にされてきた柳地蔵のそばに地植えしました。

地面に植え戻した場所：柳原銀行記念資料館入口右手・柳地蔵のそば(2024年10月25日)



マサキ ③

元々生育していた場所：元崇仁保育所
(2020年7月28日採取)

稚松保育園の園庭へと植え戻したマサキは、かつては元崇仁保育所の乳児棟のお昼寝をするお部屋から見えるところで元気に育っていました。稚松保育園の子どもたちは地植えの様子に興味津々で、地植え会当日はとても賑やかで温かい時間となりました。



地面に植え戻した場所：稚松保育園・園庭(2024年11月7日)



アジサイ ②

元々生育していた場所：元崇仁市営住宅23棟南側
(2020年4月28日採取)

崇仁地域にも歴史的に接点がある真宗大谷派(東本願寺)にご理解を賜り、地域の方々にも馴染み深い渉成園(枳殻邸)の一角を地植え場所としてご提供いただきました。管理を担当する加藤造園さんのご協力のもと、西門(出入口)のすぐそばにあるしだれ桜の下にアジサイを地植えしました。

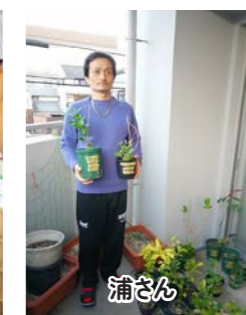
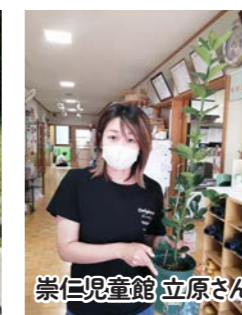
地面に植え戻した場所：渉成園西門を入ったところ(2025年1月18日)



※提供：京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL 2023 -」+ 芸術資源研究センター

挿し木のみまもり隊

今年度も挿し木は京都市以外も含めた幅広い地域の方々にお預かりいただき、生育を見守っていただいています。見守っていただいている期間中、挿し木の成長の記録を残していただいています。



それぞれの挿し木はどこに生きていて、どのような人の手に渡って地植えされたのか。一つ一つの経歴をアーカイブとしてホームページに公開しています。

<https://sukusukucentre.myportfolio.com/> 記載のQRコードからご覧いただけます。

※このWEBページは京都市立芸術大学特別研究助成事業「SUJIN JOURNAL 2023 -」+ 芸術資源研究センターの協力で作成されています。



※写真提供：京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL 2023 -」+ 芸術資源研究センター

2. 挿し木を想い、作品をつくる。

「大きな旗」「大きなピクニックマット」に続く大きな作品シリーズ第3弾として、今年度は「挿し穂の横断幕」の制作に着手しています。

地域の有志「すくすくほがらか隊」、崇仁デイサービスうのいの利用者の方々、京都市立芸大の学生さんなどと協働し、2025年11月頃の完成を目指して制作に取り組んでいます。

「挿し穂の横断幕」の制作

挿し穂の絵を描く

これまで採取し育てた挿し木のうち枯れてしまったもの(755本)を図柄化し、一つ一つ着色しています。出来上がったものは土台となる布に縫い合わせ、一枚の大きな横断幕をつくる予定です。



樹木名を書く

それぞれの樹木名のステンシル型を制作し、絵具を使って布に着色しています。約30種類の樹種名を制作します。

協力：西村寿(京都市立芸術大学美術学部2回生)



挿し穂の絵でつながる

京都市立芸術大学美術学部構想設計基礎の学生さんと一緒に、挿し木のスケッチや着色をしました。作品制作を通じて賑やかな交流が生まれていました。



3. 挿し木をきっかけに、新たなつながりをはぐくむ。

挿し木に関連する活動を続けていくなかで、そこから派生したさまざまな活動が生まれています。京都市立芸大の学生さん、京都市立美術工芸高校園芸部の皆さんのご協力もあり、地域に新たなつながりが育まれていることを実感しています。

京都市立芸大での作品展示

2024年4～6月に開催された京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでのグループ展「Floating and Flowing——新しい生態系を育む「対話」のために」に参加。地域の方々と制作した「大きな旗」「大きなピクニックマット」などを展示しました。



撮影：来田猛
提供：京都市立芸術大学

「すくすくほがらか隊」のTシャツづくり

大きな作品シリーズの制作にご協力いただいている地域有志「すくすくほがらか隊」では、シルクスクリーンを用いたTシャツづくりをしました。デザインや印刷には京都市立芸大の版画専攻の皆さんにご協力いただきました。

協力：京都市立芸術大学美術学部版画専攻・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA Tシャツデザイン：石塚紗詠



京都市立芸大生との植物染めワークショップ

「すくすくほがらか隊」では大きな作品シリーズの制作のほかに、京都市立芸大の学生たちの協力のもと植物を使った染めのワークショップなども実施しています。今年度はトレニアという植物を用いた糸の染色やコースターづくり、藍のしぼり染めを行いました。

協力：美馬摩耶(京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程工芸専攻(染織))



アートで誰ひとり取り残さないまちを目指す。

崇仁すくすくセンターの活動と連携しながら、下京東部地域包括支援センターおよび崇仁デイサービスうるおいでは、地域に花壇をつくり地域の輪を広げる活動や、昨年度作成した「大きなピクニックマット」の成果報告会を開催しました。住み慣れた地域の歴史や文化、生活等を守り、継承することで、住民、地域、福祉施設、学校、児童館等が共に歩むまちづくりを目指しています。

「大きなピクニックマット」巡回成果報告会

昨年度制作した「大きなピクニックマット」を、崇仁の近隣地域で展示する巡回展と報告会を開催しました。環境の変化が地域にもたらす影響や孤独・孤立、またつながりの重要性など、学区を超えた共通課題を話し合うきっかけとなりました。

巡回場所：菊浜せせらぎサロン・皆山民生児童委員会定例会・下京東部地域包括支援センター主催CM座談会・稚松学区くつろぎ広場



看板やプランターの協働制作

挿し木の地植え会で使用する看板やプランターは、京都市立芸大や京都市立美術工芸高等学校の学生さんたちに図案制作のご協力をいただきました。彩色や仕上げは地域の有志のみなさんや児童館の子どもたちと実施し、作品制作を介したつながりが生まれています。



提供：京都市立美術工芸高校 園芸部

花の苗のみまもり

地植え会で挿し木の周りに一緒に植える花の苗については、挿し木と同様に地域の方々に生育を見守っていただいています。さまざまな事情で直接人とつながることが難しい方々とも、植物を介することで関係性が育まれています。



撮影：中谷利明

花壇の整備を通じた交流

育てた花の苗の一部は、デイサービスのある「うるおい館」南西角の花壇で育てています。毎日の水やりは京都市立美術工芸高校園芸部の生徒さんたちにご協力いただいております。デイサービスの利用者様とも花壇を通じて多世代交流が生まれています。



花壇の整備にあたっては、京都音楽博覧会「資源が“くるり”プロジェクト」で生まれた完熟堆肥をご提供いただきました。



2024年度活動報告座談会

下京東部地域包括支援センターおよび崇仁デイサービスうるおいでの活動内容について報告する座談会を開催しました。参加者からはアート・植物・福祉の関係性についての質問や、活動が地域の方々や職員にもたらした変化についての質問などがあり、活動の意義について改めて考える機会となりました。



撮影：中谷利明

下京東部地域包括支援センター職員の声

今年度もデイサービスのご利用者様やすくすくほがらか隊の皆様を中心にたくさんのお会いが生まれました。そして、悲しい別れもありました。「作品を通して、その方を思い出し、想いをつないでいける」アートの力で人と人とのつながりを改めて感じる事ができた1年でした。

協力：崇仁自治連合会 / 菊浜学区社会福祉協議会 / 稚松学区社会福祉協議会 / 皆山学区民生児童委員協議会 / 稚松学区民生児童委員協議会 / 京都市立美術工芸高等学校 園芸部 / 京都市下京渉小学校 / 稚松保育園 / 京都市崇仁児童館 / 京都市下京いきいき市民活動センター（指定管理者：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所）/ アドナース訪問看護 / キョウトアイケアサービス / 京都市下京ケアプランセンター / 京都福祉サービス協会修徳 / 丹波口居宅介護支援事業所 / 梅小路まちづくりラボ 足立毅
助成：下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO + GOOD」令和6年度採択事業（p.8,9）
事業名：アートの力で誰ひとり取り残さないまちを目指す 団体名：社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会



「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」2024年度

活動当初から崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんに、挿し木に触れながらお話しいただいた内容を記録する活動を続けています。この記録は今後も続けていき、地植えされる挿し木たちとともに大切に未来に残していきます。

日時：2024年10月23日(水)
元第三浴場北あたりのクチナシと
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：八木 博子さん 年齢 / 年代：85歳

へえー、これクチナシか。鉢でこんなに大きくなるんか？葉っぱも大きいし元気そうやね。柳地藏さんの横か？そうかー。あそこに植えてくれるなら、きれいになって嬉しい。

柳地藏さんは、芸大さんやらがここに来る前、たかばしのガードの東側のところ、そこに寂蓮寺(じゃくれんじ)があって、そこにいはった。柳地藏尊とか稲荷さんとかが祀ってあって、私小さい頃からあそこを寂蓮寺って呼んでた。

昔は、仕事安定所から帰ってきたら、仕事終わりの16時頃やな、毎日毎日欠かさずろうそくとお線香をあげてた。14年間毎日。お参りするのを1日でも忘れたら、もう何やしらん気持ちが悪うなってしまう。寂蓮寺さん、お盆になるとお祭りもしてた。でも、そのうちにお守りする人がいなくなってしまって、お祭りもなくなった。

芸大さんが来ることになって、あそこらへん全部がどかなあかんようになって、いくつもあったお地藏さん全部とお稲荷さんの神さんは、京都市が壬生寺に納めはったと聞いて、悲しかったけど、まあ壬生寺なら全国からお参りしてくれはる所やから良かったわぁと思ってた。でも、ある日、「としちゃん」って言う寂蓮寺をお守りしてた人が、「柳原銀行の前に柳地藏さんいはるで！」って言ってきはったんやけど、私は信じられなくて。壬生寺に行かはったと思い込んでたし、としちゃんには悪いけど3回くらい聞き返したくらい。ほんまかなあと思いつつ実際に見に行ったら、ほんまにははるねん...ほんまにびっくりした。それから、また毎日、今もずっとお参りさせてもてる。デイサービスに行かへん日は昼でも朝でも行くし、デイサービスに行く日は、家に帰ってまず荷物を置いたらすぐに柳地藏さんのところにお参りに行く。もう、行きとて行きとてたまらん。お地藏さんが呼んだはるような気がする。雨の日は押し車を押しで行けへんし、廊下からお参りする。

今、ああやって雨ざらしやろ？だから、トタン屋根でもプラス

チックの屋根でもいいし、どんなんでもいいし、立派にはできひんとは思うけど、何でもいから、雨除けできるようにしてあげてほしい。それと、お賽銭いれる入れ物もないやろ？ろうそく立てるところも、線香たてる場所もない。お賽銭な、今、お地藏さんの足元にいっぱいになってるやろ？あれな、雨が降ったらお金が浮いて下の土のところに落ちてしまう。あれもどうにかしたい。でもお賽銭箱置いたら、それをさっと持っていかれたりするし...どうしたらいいかなと思って心配してる。

寂蓮寺で一番大きい立派なお地藏さんは、扉のついた祠の中に入ったはった。前かけして。お稲荷さんはお稲荷さんでまた扉のついたお社があった。お守りの人がいはった頃は、そういうのとかを、ちゃんとしてくれたはった。私が子どもの頃、夫婦でお守りしてる人が寂蓮寺のところに住んではった。その人らが亡くなったかで、そのあと、「としちゃん」がお守りしてて、その後は、私と同じ「ひろこさん」っていわはる人がお守りしてくれてた。

柳地藏と言うたら、目のお地藏さん。でも、目だけじゃない。どんなことでもきいてくれはった。色んな不思議も見せてくれはったし、いろんなお願いごともきいてくれはった。毎日な、お参りさせてもてるなら、実物の夢も不思議な出来事もたくさんもろたしな。

柳地藏さんは女の人で首が切れてるお地藏さんやって言われてた。私は、首が切れてるところの姿、見せてもろた。むかし、塩小路須原のところにお寺があって、そこに大きな石があったんやけど、そこに白い着物を着たお婆さんが横に杖を置いて座ってるところも見せてもろた。それが柳地藏さんの姿。そんな不思議なことも見せてもろた。

まだある。以前に須原通に旅館があって、その人が柳地藏さんに願かけに行かはって、その帰りに、頭から足のつま先まで包帯ぐるぐる巻きの人が目の前に現れたそう。それで腰抜かして、怖くなって、もう柳地藏さんところ行かへんようになった。それはな、柳地藏さんが試してはるんやね。不思議で怖い出来事があったも、それでもやめずにお参りに来てくれるか？って。それでもお参りに行ったら願ひ、叶えてくれてたんやろうね。私も、怖いもん見せられて試された。柳地藏さんのところにお参りに行ったら、お地藏さんの前にいるはずのない大きな牛が

寝てたこともあったし、また別の日には、トイレに行って鏡をみたら目のまわりが急にあざができてきて...でもこれきくと柳地藏さんが試してはるなと思って、気にせずお地藏さんのところにお参りに行ったら、そのあざがすーっと消えた。

ちょっとな、気になってるんやけど、でもまあ、そんなん気にしても何も変わらへんのやけど。寂蓮寺のお社の中にはあった柳地藏さんは、今のあのお地藏さん(柳原銀行の前にいらっしゃるお地藏さん)よりもう少し大きかったように思う。でも、だからといって今のお地藏さんを粗末にするとかとはちゃうんやけど、ちょっとだけ気にはしてはいるんやけどな。だけど、今いてくれる、あのお地藏さんのこと、変わらず大事に毎日お参りするのには変わらへん。

もう、どんな破材でもいい、トタン屋根でもプラスチックの屋根でも何でもいし、立派にとかは言わへんから、何でもいから、柳地藏さんが雨除けできるようにしてあげて欲しい。どうかお願いします。

(記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年10月28日(月)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおい・相談室
お名前：高橋 のぶ子さん 年齢 / 年代：88歳

柳地藏は、寂蓮寺(じゃくれんじ)にあった。お地藏さんは3体あった。そのうちの1つが柳地藏さんな。私がここに嫁いで来た時は、お地藏さんは、祠とかお堂はなくて、そのまま地面にボンと置いてあった。毎日お参りしている人が多かった。この辺りは、その頃は、水道もガスも下水も通ってなかったし、この町内は衛生面が良くなかったから、柳地藏さんのところに行って、目を治してくださいってお願いしたはった。目だけでなく、色んなお願いに行はった。まあ、この辺は悲惨な状況やったからな。

京都駅で列車が止まって、新しい石炭を積む時に、石炭の燃えカスを下ろさるんやけど、私らはそれを拾いに行ってた。そらな、燃えカスでも燃えるもんがあったんや。持って帰って、それでおかずを炊いたりしてた。そうや、結構大きいし重かったなあ。

柳地藏さんは大切にされてたな。近所の人なんかは、夕方にご飯炊いたら必ずお地藏さんにご飯をお供えしに行はった。寂蓮寺のそばに一軒お家があって、そこの方がお寺のお守りしてくれたはった。地藏盆もしてた。町内でな、子どもが学校行っても、目の悪い子が多かったから、その小さい子の手を引いてお参りに行はったお母さんとかをよう見た。目やにが出るから柳地藏さんところに行こうかと思ってた、とかいう話もよ

う聞いた。ここのみんなを守ってくれたはった。何かあったら寂蓮寺さんに行っておいでーって感じで、他にもお地藏さんがたくさんはったけど、柳地藏さんはやっぱり特別やった。この地区の外からもお参りに来たはった。「なんでここに来てるの？」って聞くと、「ここのお地藏さんのところに行ったら、目が見えるようになったって他の人から聞いて」とか言はったはった。今は、こっち(柳原銀行前)にきて、みんながお参りしやすくなったわな。寂蓮寺にあった他のお地藏さんは全部壬生寺に納められてると聞いてる。

そうやな。こないだ植えてくれてたな。(10月25日に開催した、クチナシの地植え会に高橋さんも参加して下さっていた。)ありがとうな。これから大きく育ててほしい。あ、そうか。クチナシの葉っぱに虫食いか。心配やけどしゃあないわな。気を付けて見てやらなあかん。

あんなあ、お風呂も大変やったで。第三浴場はな、もともとは個人がやっただお風呂屋さんやった。それを京都市に売らはったんやな。そんでや、京都市が提案してきたお風呂があまりにも小さすぎて、町内の人が「そんな小さいのんいらん！」って言ったり、大変やった。そやなあ、第一浴場が一番最初やった、でもあそこはお風呂が小さかった。で、第二浴場。それから第三やな。第二浴場をつくる時、当時の自治会の会長さんが、頑張ってくれはった。その第二浴場ができた時の式典に、「崇仁にいくつもお風呂いらんやろ！」って言いに来た人がいて、自治連の会長さんはその人に対してえらく怒って喧嘩したはったの、よう覚えてるわ。そら、お風呂できて、みんな喜んだ。お風呂行ってもいつも人がいっぱい。場所の取り合いでよう喧嘩になってた。でも、お風呂に行くお金もない人もいた。夏は、桶に水をためてお日さんあたるところに置いて、「ひなた水」にして、子どもたちやら洗ってたで。同じ「ひなた水」に、子ども5人を次々にいれてた。今から考えると、汚いなあ笑。え？そうやなあ、「ひなた水」おもしろい言葉やなあ。

さっき話した自治会の会長さんは、市営住宅が建った時も、1軒ずつ「どうや？生活どうや？困ってへんか？」って聞きに来てくれはった。そら、市営住宅が建つ前は、小さい家がぼつぼつ建って、玄関は引き戸もなくて、むしろかけてるような家ばかりやった。高瀬川沿いには長屋がいっぱいあって、夜に川辺で寝てる人もいた。なんで川辺で寝てはるんやろうと思って聞いてみたら、「ねえちゃん、あんな、わしら親子5人やろ？全員で寝たら子どもが暑い暑いって言って寝れへんから、ここでござを敷いて寝てるんや」って言ってはった。そんな状況やった。この町内にはお祭りの鉾が3社あって、そのうちの1つは、寂蓮寺さんのそばの人が作らはったから、「寂蓮寺さんの鉾」って言われてた。この寂蓮寺さんの鉾は、それこそ寂蓮寺のすぐそばにずっと置かれたままになってた。塩小路高倉の角にも飾ってあるやつあるやろ？あとは新しく来た高校のところに置いてあるな。昔はな、日吉さん(日吉神社)に鉾を入れてもらえ

へんかった。部落やからっていうことでや。だから、ここはここ独自のお祭りをしてた。でも、何年かしているうちに、おたまし(魂入れ)をしてもらえて入れてもらえるようになったけどな。あれ、いつ頃からやったやろうなあ。

崇仁の保育所もな、立派なんできた!って喜んでたんやけど、見に行ってみたら、午睡室があるところが列車の線路に近いところであって、列車が通る度にうるさいから窓閉めなあかん。でも扇風機もない状態で。しかも板の間にごさを敷いて、や。そんなん蒸し暑い中でどうやったら子どもが寝れるんやって。で、子どもを寝かしつける先生が、なかなか寝れない子どもの首根っこつかんで叩いてたところを見てしまって、これはあかん、こういう環境が、子どもだけでなく大人にも悪影響を与えるから、何とかしなあかんと思って、町内の有力者のところに言いに行った。そしたら、「高橋、お前も一緒に京都市について来い」と言われて一緒に行った。それで、扇風機をつけさせて、マットレスを敷かせたり、そういうこともした。そうこうしているうちに、自分の子どもが保育園に行くようになって、私も保育園の育成会の会長になった。保育園でもいろいろあった。いろんな経験させてもろた。

「差別なんか無い」って言う人がここの町内の人や。地の人がそう言ってる。現実をもっと知って欲しかった。あっちこっちで夫婦喧嘩してる声は聞こえてたなあ。でもな、こんなどん底な生活をしていても、生活がほんまに楽しかった。

また続きの話するしな。聞いてな。私は、ここ(デイサービス)にいるし。顔、覚えてしな(笑)
(記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年11月25日(月)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：藤本 節子 さん 年齢 / 年代：80歳

これ、崇仁小学校のアジサイなの?ちょっと小ぶりやね。でも葉っぱは元気そうに青々してるし、健康そう。

私は小学校の時は身体が弱かったから、朝礼とかも出てへんし、修学旅行も行っていないし、そういう行事ごとの思い出はあんまりない。覚えてない。確か、小学校5年生くらいからそういう行事には出て行けるようになってたかなあ。

上が男4人で、私が初めての女の子やった。身体が弱かったって言うんだけど、正直、好き嫌いが多かったから、要するに栄養失調やった。そんな体やったから、叔母さんの血をもらったりしてた。親から、「小学校は途中で帰ってもいいから、とにか

く毎日行け」と言われていたので、毎日行くことは行ってたよ。

中学は皆山中学に行きました。そうやなあ、中学くらいからだいぶん身体も丈夫になってたかな。中学を卒業して、洋裁教室に2年くらい通った。二之宮の正面通りの辺りに教えてくれる人がいて、その人に教えてもらってた。

そして19歳の時に結婚しました。生まれた年も同じ、ほんまの同級生と。どうやって結婚することになったかって?ももとは、私のお連れと、のちに主人になる人がお付き合いをしていて、その二人が松竹座に映画を見に行くことになってたんやけど、当日お連れが行けなくなったので、急に私が代わりに行くことになったんです。その頃、私の叔母さんが松竹座で働いていて、私とその男の人が一緒に映画を見に来ているもんやから、つきあっていてうまくいってると思い込んでしまって、それがまわりまわって噂になって、私のお連れとその男の人の関係がもつれてしまってダメになって...で、結局その人と私が本当に付き合うことになったんです。

19歳で結婚して、3年経った頃、主人が骨髄分離症って言われて、1年間、日赤病院で入院することになった。そこで、収入がなくなるから、何とか生きていかないといけないということで、昔教えてもらっていた先生に仕事の相談に乗ってもらって、学童で子守りの仕事をさせてもらうことになった。その頃は、朝は旅館のそうじの仕事をして、それから学童の仕事に行ってた。学童の仕事を続けていて、23歳の頃、児童館で仕事をさせてもらえることになった。当初、元崇仁小学校の校長先生をしていた中村先生が児童館の館長をしたはったから、そのご縁もあって、お仕事をさせてもらうことになった。

まず、中村先生から同和研修を受けました。その頃の私は、自分が崇仁で生まれて育ったことを言いたくなかった。だけど、それではあかん、教室入る時には必ず、「こんにちば。崇仁の藤本です。」って言わなあかんって言われたもんやから。それがほんまに抵抗があった。だけど、そんなことも言ってもらへんし、我慢して我慢して頑張った。崇仁と山王と希望の家の3施設での交流があって、その催しに対応しなあかんかったし、そういう挨拶のところから叩き込まれた。午前中、子どもたちがいない時間には、手話、楽器(たて笛)、習字とか、教養的なことを習った。たて笛が、ほんまに嫌やった。苦手やった。でも、3施設交流の催して、「こきりこ」をたて笛でやらなあかんかって...もう難しくて、泣き出したくて、逃げ出したくて、辞めたかった...そうそう、その頃に、挿し木をしたり、植物や野菜を育てたりということをしてたんです。

崇仁の児童館は、ももとは隣保館の空き部屋を借りてやって、そのあと高瀬川沿いのところのプレハブで、それから今のところです。その高瀬川沿いのプレハブの跡地で、土いじりをしてた。大根の葉っぱを炊いてご飯に混ぜたり、ドクダミを乾燥させてお茶をつくったり。そういう自然と触れ合うことはそこ

で学びました。3施設の交流によって色んな人と会うから、植物の染めをやっている人とか、手芸をやっている人とかに会って、自分でもやってみようと思って、我流で今でもやってる感じです。

中村先生は、私の顔を見て一瞬で、機嫌が悪いか、そういうのはすぐにお見通し。朝、児童館に入ってすぐに私の表情を見て、「あ、今朝、家でけんかしたんか?」とか言ってきはって。さすが先生っていう感じやった。私が成長したのは、地元と児童館のおかげです。児童館では40年働きました。

振り返ると、色んなことがありました。夫婦のことでイライラすることとか、家庭内の愚痴とか、そんなことは町内の人に言えへん。そういう時は、智積院に一人で行って、じーっと庭を眺めると、1時間くらいしたら気持ちがすっきりして家に帰れた。何度も何度も行くもんやから、お寺の人が私のこと覚えてくれはったんやろうね、庭を眺めてたら、「気持ち、落ち着きましたか?」ってお茶出してくれはったよ。それとか、京阪で出町柳まで行って、そこから叡山電車で鞍馬に行って、もみじを見て、時間があったら出町柳の商店街に寄っておかずを買って、ふたばの豆もちも買って、それですっきりして家に帰ったりもした。え?あ、そうやそうや。その通り、自分のことは自分で何とかする。そういう性格です。

お寺とか石仏とか、主人がよく連れて行ってくれた。藤森の辺とか、滋賀の近江神宮のそばとか。今はもう行けないけど、よく行ったよ。

80歳になって。今、今が一番幸せです。家庭のことも、町内の人のお友達もたくさんいるし。ここで生まれ、ここで育ち、育ててもらったから、ここへ私ができることを返したい。その気持ちだけでいます。

クチナシのところ(2024年10月25日に柳原銀行前の柳地蔵の隣にクチナシの挿し木を地植えした)、きれいにしてくれてありがとう。許可が出たら、柳地蔵さんのまわりも草引きをしたりして、一緒にきれいにしていましょ。 (記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年11月26日(火)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：藤川 君枝 さん 年齢 / 年代：90歳

私は、生まれは唐橋です。羅生門のあたり。結婚でこっち(崇仁)に来ました。主人とどういいう出会いやったかって? 私は18歳から任天堂で働いてて、その頃、四条寺町に美松(劇場?)があって、そこのダンスホールによく行ってて。そこで主人に出

会った。まあ、言うたら、生演奏で踊るところやね。有名人もよく来てた。同志社の学生とか多かったよ。みんな踊るために来てる中、主人は一切踊ってなくて、それが何となく気になってた。主人のほうから声をかけてきてくれた。何度も会ううちに、帰りが遅い時間になると、その頃車も何もないから、いつも私の家まで歩いて送ってくれてた。そう、唐橋まで。近所の豆腐屋の人に、朝方に帰るところをよく見られてたし、不良やと思われてたみたいやわ。え?主人か?そうやな。私を家に送り届けたあと、一人で崇仁に歩いて帰ってたんやろうな。そんな出会いで、19歳で結婚して、息子一人を産みました。

結婚に関しては、私の親や兄弟からは反対されたけど、それを振り切って家出して結婚した。私は、こちら(崇仁)のことは何も知らなかったけど、迎えてくれた主人の家族がほんまにいいところやった。主人のお父さんは、町内の人に「外から嫁が来てくれる」って言ってきていたようで、近所の人らみんなから優しく迎え入れてもらった。

主人は11人兄弟の一番末っ子やった。主人のお父さんお母さんとも、死ぬ際まで隣にいたよ。ほんまによくしてもらったし。便が出えへん時は、肛門に手をつっこんで便を取ってあげたり。そんな時は、お義父さんは「すまんなあ。すまんなあ。」って泣いてはった。

私たちに息子が産まれた時、そのお義父さんな、普段着いひんマントを着て、主人を連れて、私の唐橋の実家に行って、「娘さんが子どもを産んでくれたから会いに来てください」と言いに行ってくれた。それで、私の母親が会いにきてくれた。言葉はそんなに交わさへんかったけど、もちろん私は嬉しかった。それ以来、母親が私に姿見(鏡)を送ってきてくれた。その姿見は、今でも持ってる。他のものは、引越しの時にいっぱい捨ててきたけど、それだけは残してる。

母親が会いに来てくれて以降は、一年に何度かは実家に帰って、息子を親に会わせに行ってたな。でも、私は、親に息子を預けてダンスホールに踊りに行ってた!(笑) そしたら、お義父さんが私が帰ってこおへんから心配して、主人に私と息子を迎えに行けと言って唐橋に行かせたりしてくれてたな。

え?縁を切ったけど、その後に親に会えてどう思ったかって? うーん、そら嬉しかったよ。家出をして結婚して、子どもを産むまでは一切会えてへんかったしな。でも、そういうことについて、母親は結局何も言ってこなかったけどな。あなの、「橋のない川」っていう映画があるから、それ見てみるといいよ。ぜひ、見てみて。部落の様子が丸ごと映画になってるわ。橋がかかってないから、今いるところから出でいかれへんっちゃうことやな。私が、調理師として学校に勤めてた頃、その映画を見た。川岡小学校とか七条小学校に行ってた。当時は1700人くらいの児童がいたから、その人数分の給食を6人で

作ってた。
色んなことがあったなあ。こんな風に思い返してみると色々あったわ。なあ。
このアジサイが？これが地面に植え戻されて大きく育った頃なあ。その時に、アジサイの前にいるかもしれない人に伝えたい言葉なあ。「根のあるものは強いね」かな。うん。

ありがとう。こんな話聞いてもらえて、久々にいろいろ思い出したわ。これ(アジサイ)も、また地面に植えたってな。
(記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年11月26日(火)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：若林 厚子 さん 年齢 / 年代：93歳

これ、崇仁小学校に生きてたアジサイなんですか？かわいらしいね。いいですね。緑があると気持ちがほっとします。

私らの時は戦争中の何やらで、その当時は中学校がまだなかったから、小学校6年生を卒業すると、その続きで2年間高等小学校に行きました。小学校と同じ場所に高等小学校もあったんです。そやから8年間通ったことになりますね。そうやねえ、小学校の6年が終わって、就職する人もいたし、他の女学校に行く人もいましたよ。
今、そこ(崇仁デイサービスうるおいのすぐ近く)に郵便局があるでしょう？私はその真ん前で生まれました。それで、芸大ができるからって立ち退きになって、今は高倉の市営住宅に住んでいます。お神輿が飾ってあるところの一番端っこのところ。七条通りに近いところ。立ち退きになったのは、そうやね私が85歳の時やった。

7人兄弟の、私が末っ子です。もうね、兄弟みんな亡くなってしまったし、結婚しても子どもがいなかったりして、独身も多くて、今は私一人になってしまいました。でもね、東京に甥っ子(姉の息子)がいて、その子が月1回東京から来てくれます。私が若い頃、お勤めもしてたけど、甥っ子の面倒をよく見たから、今もこうやって来てくれるんです。姉は、旦那さんと結婚をして、東京のしらゆり学園で先生をしていました。

私は、そこの郵便局の前で食べ物の商売をしていました。おでんを出してました。お風呂屋さん(元第一浴場)がすぐ近くにあったからね。周辺は、駄菓子屋さん、おぜんざい屋さん、天ぷらとかホルモン揚げ、おうどん屋さん、いっぱいあって賑やかやったよ。私のところは、店の前で食べてもらうこともあったけど、みんな家からお鍋を持ってきてくれはって、持ち帰ったはった。主にすじ肉、それから、じゃがいも、こんにゃく、ごぼ

天、ちくわ。串にさして出していた。
ちょうど、今日も、ここ(デイサービス)でお風呂に入ってる時、近所の人から、「あんたところのおでん食べたいわぁ」って言うてもらったところ。近所の人に喜んでもらってたんやなあと思って嬉しい。ここ(デイサービス)では近所の人に会えるし、昨日は、そこの花壇(デイサービスが管理をしている)にお花を植えたりして、いろいろ楽しませてもらっています。週3回だけデイサービスに来てます。そうそう、ご飯がおいしいの。デイサービスに来ない他の日は、お弁当をとってるけど、そのお弁当はあんまりおいしくないね。

前に住んでいた市営住宅を立ち退きになってから、新しいところでも、昔の近所の人とか、お友達が家に来てくれはるよ。前に入院をした時、痩せてしまって、「お肉食べや」って言われて、今住んでるところの下にお肉屋さんがあるから、そのお肉屋さんにお願したら、調理をして持ってきてくれたり、近所の人に助けてもらってます。

90歳までは、三十三間堂のそばの原田病院まで歩いて行きました。今は、月に2-3回、家に往診に来てもらってます。お薬もその時に持ってきてもらえるし、助かってます。

昔はお花やらよう育ててた。今は、家の中で2つだけ育ててます。お花が咲かへんやつ。前までは、人をお願いをして、植え替えとかもやってもらったりしてたんやけど、それももう出来ひんから、家の中に置いて育ててます。

(手元にあるアジサイの挿し木を見て)
この子、かわいいね。どこに植えるかまだ決まってるの？探してあげてください。また地面に植えたら大きくなるしね。大事にみんなに育ててもらって長生きできるように、お願いします。
(記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年12月18日(水)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：前田 英子 さん 年齢 / 年代：90歳

はい。はい。どうぞ。染めの話が聞きたいんか？私が働いていたのは、たいよう友禅株式会社っていうところ。ここ(デイサービス)の建物の終わりの辺りにあった。須原通より西のほうや。私はそこに就職をして7年間働いた。幅が1mくらいの反物、巻いてあるやつな、長さは25mくらいあった。そう、長いやつ？生地はさらっとしてるやつや。布地を織る人は織る人で別にいはって、その人らが織らったやつを、友禅の型で下に糊入れがついてあるようにしたもんを、私ら8人くらいが、1人ずつ自分の色を染めていく。柄ごとに色が違うしな、1人が染めては乾か

して、それで次の人がまた違う色の部分を染めて...という感じで。まあ、色数はだいたい4～5色やったかなあ。1日にその反物が3本完成するかしひんか、そんなくらいやった。乾かすのは、工場の上のほうに反物を吊り上げて乾かしてた。反物は全部海外行きやった。インドのあたりへ送ってた。そうそう、工場に下見に来はる人がインド系の人やったなあ。女性はみんなサリーみたいなんを着たはった。年配のインドの女の人も、色んな柄が入ったやつ着たはったで。楊柳(ようりゅう)っていう生地や。
私の生まれは、京都駅の北側とたかばし(高倉通り)の交差するあたりの西側。今、ラーメンの第一旭とかあるやつ？あそこの細い道に入ったあたり。そうや。そうや。知ってるんか？猿寺(正行院)の辺や。親元の家な。今はその家はもうあらへんけどな。

崇仁校は行ってへん。皆山小学校に行つて、私が小学校6年生の時に皆山中学校ができた。だから私らは、皆山中学校の一期生。皆山小学校と皆山中学校は同じ場所にあった。今の涉成小学校のところやわ。
その時分は、路面電車がなかったなあ。伏見にいく電車と、北野天満宮にいく電車の2つしかなかったなあ。そうやなあ。人が行き来したりしてにぎやかやったな。
これせえあれせえって先生によく言われてたけど、親が貧しかったから、そんなん何も手をつけられへんかった。だから先生によく怒られた。昔は給食もなかったし、なんにも、ないないづくしや。それでもな、学校に行つて、友達やらとわーわー言うてな、そんなもんや。

私は6人兄弟の長女で、私の下に5人いる。お父さん(旦那さん)は、崇仁校の人でな、結婚して、お父さんの親元のところに住んでたんやけど、そのお父さんも亡くなって16年経った。今は、九条車庫のすぐ近くの娘の家で娘と一緒に住んでるよ。そやけどなあ、あんたみたいなことする人いるんやなあ。えらいなあ。私らのまわり、小学校とか中学校とか一緒に行つた人らの中で、あんたみたいな人おらんで。えらいなあ。木を残そうとしてるんやなあ。そんな大変なことやんか。

今日話したことは、全部、偽もんとちゃうで。ほんまもんの話やしな。私の言うたことを参考にして、またよう考えてみてください。

ありがとうな。よう話きいてくれたな。あんたのやってることも話してくれてありがとうな。頑張つてや。
(記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年12月19日(木)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：澤村 美智子 さん 年齢 / 年代：85歳

生まれたのは、今は芸大になってしまったけど、もともと崇仁保育所があったところの下之町。戦争が始まってその家は防空壕が無いからって、須原通り沿いの崇仁校裏門のちょうど前あたりにあった、おばあちゃんの家を離れに住んでた。私が保育所に通つた頃やな。おばあちゃんの家は大きかったし、離れのところに、がばーっと防空壕が掘つてあった。戦時中で男はみんな戦争に行つたから、家には女しか残ってないし、近所の人らが来て掘ってくれはった。そうやなあ、掘る場所がなかったら、縁の下、畳の部屋の下とかに掘つてあったところもあった。

小学1年の時(昭和20年に小学1年生)は、おばあちゃんの家を出たら目の前が崇仁校の裏門で、裏門からいつも学校に行つてた。当時は子どもたちは裏門を使つてたなあ。2年生の時に上之町に移つた。その時も、集団登校で崇仁校の裏門から学校に入つたな。どこの家も子どもは多かった。私とこも、私をいれて5人兄弟やった。7人兄弟とかそんなところもあった。

崇仁校の裏門に入ったところに、今もあるけど体育館(体育館の場所はずっと同じだったそう)があつて、その向かい側(北側)に相撲場があつた。土俵が作つてあつた。男の子は体操の時間に相撲をした。その頃はな、肩から非常袋を下げて学校に行つたな。進駐軍が来るかもしれんって言うてな。その当時、ランドセルなんか無かつた。6年生になって、そこから皆山中学校に行つた(崇仁校の高等科はその頃無くなつてた)。

皆山中学校を卒業してから、就職もすつとできたな。その頃は就職先はいっぱいあつた。特に大阪なんか、明治のアメの会社とか、キリンビールとかがあつて、そこらに就職していた知り合いがいた。私はずっと京都で、ナショナルの会社とか、映画館に勤めてた。今はもう無いけど、河原町三条のあたりにスカラ座っていうところがあつたんや。そこは、京都で初めてエスカレーターができたところやった。スカラ座は2階にあつたから、そのエスカレーターを乗つて映画館に行く。仕事は、切符を売つたり、売店に回つて商品売つたりとかしてた。そうそう、まったくその通りでな、京都の他の映画館も無料で見れる券みたいなんもらえたとし、いろいろ見に行つたよ。

その頃は京都には映画館がいっぱいあつた。映画館が並んでたもんな。スカラ座は、洋画が専門で、西部劇の「シェーン」とか「黄色いリボン」(ジョン・ウェイン)とか。知らんか？当時はな、学生やらも多かったし、どちらかと言つたら女の人をよく見に来たはった。そうやなあ、他の映画館との違いは、スカラ座は封切り映画(新作もの)をやつたからちょっとお金は高かつたな。他の映画館は、古い映画を2本立てとかそういう感じで売り出したはったところもあったなあ。

結婚は20歳でした。早かつた。あのな、私らの時代は社交ダンスやんか。四条河原町の高島屋のちょっと下がつたところに、「べんえん」って言うところがあつて、そこで旦那と出会つた。

売れる前の沢田研二とかの実演もあったんやで。旦那は、神戸から遊びに来たはった。ダンスをよう知ったはったし、上手やった。だから、私から、「教えてー教えてー！」って言って、教えてもろて、上手に踊れるようになったわ笑！神戸なんか、いっぱい社交ダンスのところあるやんか、だから踊るのも上手やし、見た目もハイカラやった。私の1つ上で21歳やった。

で、結婚して旦那は神戸からこっちにきてくれて、上之町のところに一緒に住んでた。そこから、9棟に入れることになって引っ越して、今から3年前に9棟から立ち退きになって、今は東之町に住んでる。そうやなあ、引っ越しは多かったなあ。今は一人で住んでるけど、娘2人がまあまあ近いところに住んでるし、いろいろやってくれます。助かってます。

私な、82歳まで働いてて、その頃まで一回も風邪とかもひいたことがないし、どこも痛とかなかったんやけど、82歳になって、突然ある日起きたら脚が腫れてて、病院に行ったら、心臓に水がわいてそれが脚に流れ込んでることが分かり、入院をして心臓の手術をした。それで今でも府立病院に行ったり、南病院にも行ったりしてる。

こんな身体になってしまって何もできひんようになって、ほったらかしてしまってるけど、9棟に住んでた頃は、9棟の南側の部屋やったから日当たりがよくて、ボケ、アジサイ、サザンカとか育ててた。何も手間かけてへんかったけどな、米のとぎ汁をようあげてた。それがいいらしい。お花の色もきれいになるし、元気になるし。このアジサイにも、米のとぎ汁あげてみたらいい。きっともっと元気になるわ。

ボケの花はかわいいやろ。家には、真っ赤でな、もう何ていったらいいかほんまの真っ赤や、その隣に白いボケの木もあって、いつからかそれらが混じりあってピンクの花も咲くようになった。きれいやで。引っ越して何もやってへんけど、今年もきれいに咲いてた。あじさいもボケの花もきれいに咲いてた。丈夫なんやなあ、植物っていうのは。そうそう、ボケって、とげが長いやろ？そのとげのところから、ぶくっとした実ができるねんな。あれ、娘が調べてくれたんやけど、何かの薬になるらしいよ。

このアジサイ、ここ(株元)から新芽出てるやんか。かわいいなあ。崇仁校のアジサイなんやなあ。へー。鴨川沿いのほうが。そうやなあ、あの崇仁校の鴨川沿いは桜がきれいやったしな、桜の時期に撮った写真にこのアジサイも写ってるかもしれへんなあ。いやー。ええなあ。

とにかく一回な、米のとぎ汁あげてみてみ。もっと元気になると思います。ありがとう。また地面に植え付ける時、教えてください。行きます。見に行きます。よろしく願います。
(記入者氏名：山本 麻紀子)

日時：2024年12月25日(水)
元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②とともに
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア
お名前：勝本 秋子 さん 年齢 / 年代：87歳

―――
【2022年6月、勝本さんから伺ったお話についてのメモ】

アジサイ一輪とドクダミ2本ほどを半紙でくると花束みたいに包み、根元のほうを紅白の水引で縛る。それを逆向けにしてトイレに吊ったら、下(しも)の病気にならないというおまじないがある。だんだん葉っぱがバリバリになって枯れていくが、葉っぱや花は落ちないままで、1年経ったらそれを自分で燃やす。また、カシワバアジサイっていう、葉っぱが柏餅の葉っぱみたいな形をしたアジサイがある。(だいたい白の花らしい)それを、7月1日に、玄関に吊り下げたら厄除け、悪魔が来ない、そういうおまじないもある。

―――
いやあ、これアジサイやろ？(私が持ってきたアジサイを見て)うちな、アジサイ大好きや。そやけど、これ、葉っぱ黄色くなってきてるやんか。へー。そうかー。冬になったら葉っぱ全部落ちていくんかー。そうなんやなあ。

なんや？アジサイのおまじないのことか。そうやそうや、そうやで。でもなあ、細かいことはもう忘れてしもたわ。ごめんな。

とにかくな、私はアジサイが大好きや。学校に仕事に行ってたって言ってたやろ？そうや、給食の調理士の仕事な。その行ってた学校の庭に、アジサイが咲いてた。ガクアジサイと、ふつうの丸っこいやつの2つが咲いてた。九条弘道小学校。そこに9年間、調理士として籍を置いて働いてた。そこに籍を置きながら、他の小学校で調理士に休みの人が出たら、自転車で行ってな、手伝いをしたりしてた。陶化小学校も行ってた。その時は子どもが多かったしな、大変やった。冬は寒いし、その寒い中で、じゃがいもとか玉ねぎをむいたりな。調理士になるためには免許がいるしな、そのための試験もあった。

好きなアジサイの花の色か？そうやなあ、その時その時で色変わるやろ？ピンクになったり青になったりな。全部好きや。うちな、前のアパート(元市営住宅24棟)では1階に住んでたし、庭があった。角部屋やった。働いてた九条弘道小学校から、ガクアジサイと丸っこいアジサイとをな、ちょっともらってきて、それを育ててた。鉢で育ててたんやけど、どうもすぐにしおれてしまってあかんかった。それでな、近所に住んでる、花とか上手に育てるおじさんに地面に植えてもらったら、どんどん元気に育ったんや。そのおじさんは、自分の家からペットボトルに水をいれて持ってきて、その水をアジサイにあげたはった。どうもな、私んとこの家の水はあかんかったみたいや。なんでかわか

らへんのやけどな。

え？そう、前は24棟に住んでた。そうや、寂蓮寺の近くや。家からも見えてたで、歩いて1分前からへんくらいや。あそこはな、どんな願い事でもようきいてくれはった。目が悪い人や、ようお参りしたはったで。「おこずいさん」て言うてな、まあ言うたら水のことや。寂蓮寺にあった蛇口からお水をコップに入れて、その水を、自分の悪いところ、目やったら目に、乳があかんときは乳にあてたら治るって言われてた。私も結婚して、妊娠して、寂蓮寺でようお参りしてた。

崇仁校は楽しかったで。そやけどな、私の家は貧しかったやろ。そやから、小学校の時から働きに行ってたしな、小学校も卒業してへん。修学旅行とかも行ってへん。小学校のあとは、皆山中学に行ったけど、そこでも働きに行ってたし、学校はそんなに行けへんかった。どんな仕事かって？お風呂屋さんの男湯でな、今こそお風呂屋さんに行ったらロッカーがあるけど、うちの時はそんな無かったしな。お客さんは脱いだ服とかをかごにいれてた。そのかごを整理して置いたりとか、そういう仕事をしてた。でもな、そのうちに、「男湯のところに女の子がいたらお風呂入りに行きづらいわ」って言われてしもて、もう来んといってくれて言われてしもたんやなあ。

まあなあ、いろんな仕事やったで。10では足りひんくらい、いろんな仕事したわ。私はやんちゃやったしな。好きなように仕事してた。そんな感じやから、誰とでもしゃべる。

生まれたのは下之町。ずらーっと並んだ長屋のうちの1軒やった。6つ違いの甥っ子がいるんやけど、その子も一緒に寝たりしてたで。家は狭いし、まあ私のところは貧しかったしな。

近所の人と結婚した。私が24歳で、旦那は2つ上の26歳やった。私の姉の旦那さんと、私の旦那が兄弟やってな。そういうご縁で。旦那は優しかったで。靴職人。下之町は靴職人が多かった。

私はずっと下之町。下之町のことなら何でも聞いてや。こうやって話するのはな、楽しい。え？そんなん、しんどいとかないしな。まわりも何も気にせんでええ。

山本さん、ありがとうな。(私の手を握りながら)こんな風にまたいろいろ話聞きにきてな。待ってるしな。私もがんばるわな。アジサイも大事にして植えてやってな。そうか、これ、伊東茂光先生のイチョウの木のそばに植えてくれるかもしれへんのか？それは頼むで。嬉しいわあ。アジサイな、私ほんまに好きやしな、お願いな。またな。すぐまた話しような。

(記入者氏名：山本 麻紀子)



2024年度活動報告展

開催期間：2025年1月12日(日)～1月19日(日)
場所：下京いきいき市民活動センター 1Fロビー
設営協力：嶋谷恵太 西村寿 宮崎知南

2024年度の活動報告展では、制作中の「挿し穂の横断幕」の一部を展示しつつ、地植え会や作品制作の様子、地域の方から聞き取ったお話など、今年度の活動を幅広く紹介しました。



来場者の声（会場に設置したアンケートより一部抜粋）

挿し木プロジェクトから、たくさんの人の色々な思い、アイデアが生まれて、つながりが広がっていく、とてもすてきな取り組みだと思いました。

これまでの活動、今後の活動の内容がよく分かっただけでなく、活動に込められた思いがとても伝わる展示でした。

挿し木をきっかけとしたつながりが素晴らしいと思いました。

様々な方を巻き込み、取り組みが広がっていると感じました。

ピクニックマットの時も見に来ましたが、それぞれの立場や状況に応じて、色々な人が色々な形で関われる方法を模索されていることが伝わってきました。横断幕の完成、楽しみにしています。

写真や展示等、すべて素敵でしたが、特にインタビューの記録集が印象的でした。私はほぼ全く崇仁地区の歴史を知らないため、インタビューの人の生活、経験、記憶が、血肉のような言葉で伝わり、とてもダイレクトにきました。感動してじーンとききました。崇仁地区について、とても興味が湧いております。ありがとうございました。



撮影：中谷利明

崇仁すくすくセンター実行委員会



委員長：山本麻紀子
(アーティスト)



副委員長：出口 むつみ
(社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会
総合福祉施設東九条のぞみの園 施設長)



委員：安部 良
(建築家/Architects Atelier Ryo Abe 代表
/東京藝術大学美術学部 准教授)



監事：四元 秀和
(京都市文化市民局文化市民総務課長)



事務局：山本 和則
(哲学者/余白製作所)



事務局：安部 知
(Architects Atelier Ryo Abe)



事務局：宮崎 彰子
(京都市下京・東部地域包括支援センター
センター長)



事務局：大森 晃子
(崇仁デイサービスうるおい 管理者)

活動へのご支援のお願い

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）の取組を応援していただける個人の方を募集しています。地域の記憶や人々の思いを未来に繋ぐため、皆様のご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

金額：1口1,000円。複数口のご寄付も可能です。

寄付者の皆様には、寄付金額に応じ年に1回の記録集の進呈、活動報告展や記録集・その他印刷物(チラシ等)にお名前掲載等を予定しております。

ご寄付の申込方法

以下のメールアドレスまでご連絡ください。折り返し担当者より詳細についてご案内いたします。

contact@sukusukucentre.org 事務局(担当:安部)

2024年度は以下の皆様にご寄付を賜りました。(順不同) この場を借りて改めて御礼申し上げます。

内山幸子様/矢野喜樹様/梅田郁美様/くみ様/柳田慶子様/azu2様/吉岡久美子様

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）2024年度

協力：

崇仁自治連合会 / 菊浜学区社会福祉協議会 / 稚松学区社会福祉協議会 /
皆山学区民生児童委員協議会 / 稚松学区民生児童委員協議会 /
崇仁発信実行委員会 / 柳原銀行記念資料館 / 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA /
京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL2023-」+芸術資源研究センター /
京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻 / 京都市立芸術大学美術学部版画専攻 /
京都市立美術工芸高等学校 園芸部 / 京都市下京涉成小学校 / 稚松保育園 /
京都市崇仁児童館 / 真宗大谷派(東本願寺) / 喫茶アミー / すくすくほがらか隊 / 挿し木のみまもり隊 /
京都市下京いきいき市民活動センター（指定管理者：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所）/
アサヒサンクリーン株式会社 / 植彌加藤造園株式会社 / 相原絵未(植物のアドバイス・植え付け指導) /
西村寿・大岡京奈(挿し木の看板づくりワークショップ) /
石塚紗詠(すくすくほがらか隊Tシャツデザイン) / 美馬摩耶(植物染めワークショップ) /
池田精堂(バラの看板制作)

助成：京都府文化力チャレンジ補助事業

表紙写真提供（二段目中央）：葉山和則

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）2024年度活動記録集

発行：崇仁すくすくセンター実行委員会 デザイン：カズマキカク 印刷：株式会社プリントバック レト印刷 JAM
発行日：2025年2月

著作権法で定められた範囲を除き、無断での複製、複写、転載を禁じます。

※本プロジェクトは、2019-2020年度HAPS主催による京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環としてスタートしました。

崇仁すくすくセンターウェブサイト <https://sukusukucentre.org>

ご意見・ご感想などは以下メールアドレスまでご連絡ください。
contact@sukusukucentre.org